

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和5年12月1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
宮城文化服装専門学校	平成29年1月29日	守末 紀生	〒 980-0021 (住所) 仙台市青葉区中央3丁目4-8 (電話) 022-227-1345				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人守末学園	平成27年1月18日	守末 紀生	〒 980-0021 (住所) 仙台市青葉区中央3丁目4-8 (電話) 022-227-1345				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
服飾・家政	専門課程	ファッションビジネス科	平成 7(1995)年度	-	令和 5(2023)年度		
学科の目的	縫製及びファッション産業の専門教育を授けると共に人格の陶冶を図り優れた人材を育成することを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,100 単位時間 単位	347 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,754 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
40人	24人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		7	人			
	■就職希望者数(D)		6	人			
	■就職者数(E)		5	人			
	■地元就職者数(F)		3	人			
	■就職率(E/D)		83	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		60	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		71	%			
	■進学者数		1	人			
	■その他						
	(令和 4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ファッション業界:販売職							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載		無				
当該学科のホームページURL	https://www.miyagibunka.ac.jp/osbusiness.html						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数	2,100 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	96 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数	96 単位時間					
	うち必修授業時数	2,100 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	96 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	96 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	96 単位時間					
	(B:単位数による算定)						
	総授業時数	単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位					
	うち必修授業時数	単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		7人				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

宮城文化服装専門学校は東京の文化服装学院の連鎖校として、長年に渡りファッション業界に多くの人材を輩出して出来ました。時代と共に変化するファッション業界に遅れを取ることが無いよう企業と密に連携し、より即戦力となる人材を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の意見は教職員による検討会議で審議されたのち、校長の許可を経て決定する。

なお、教育課程編成委員会は学則に規定する教育課程に関する事項を審議する。

本委員会は校長が招集し、年2回の会議を開催することができる。

本委員会の議決事項は、学則改訂に反映される。学則変更についてはその後に理事会による承認を経て決定とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年12月1日現在

名前	所属	任期	種別
守末 紀生	宮城文化服装専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
神長 学	宮城文化服装専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
増子 佳世	宮城文化服装専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
阿部 英昭	公益社団法人全日本洋裁技術協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
庄子 弥生	株式会社ワールドストアパートナーズ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 正和	株式会社福装21	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
加藤 千草	有限会社モックプランニング	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年5月31日 16:00～17:00

第2回 令和4年11月11日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【意見】インターンシップは早い時期から始めた方が良い

【対応】企業側と調整し、可能であれば早い段階から実施したいと思います。

【意見】技能五輪などを受けてみてはどうか。

【対応】上級学科の学生が受ける事が可能かどうかカリキュラム等を見て検討いたします。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

時代と共に変化するファッション業界に遅れを取ることが無いよう企業と密に連携し、より即戦力となる人材を育成する。企業から直接指導を受ける事により、より実践に即した授業を実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業の店舗においての実習や企業の社員に行っている研修等を企業側スタッフによる指導の元を実施。授業(座学・実習)においての理解度・出席・筆記試験等の評価を総合的に判断し成績として企業側にて評価。

- ① 学校が授業計画を作成し、企業側に提示し、協議の後実施する。
- ② 企業より、授業を支援するスタッフを派遣。
- ③ 教員と企業スタッフによる協議に基づき、評価を実施。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
マーチャンダイジング I	マーチャンダイジングや接客対応、ディスプレイなどアパレル企業に入って必要な技術・知識を基礎から応用まで理解を深めていく。企業情報を元に店舗にて実習を行うことにより、企業と連携し現場に即した技術の習得を図る。	(株)ワールドストアパートナーズ
マーチャンダイジング II	マーチャンダイジングや接客対応、ディスプレイなどアパレル企業に入って必要な技術・知識を基礎から応用まで理解を深めていく。企業情報を元に店舗にて実習を行うことにより、企業と連携し現場に即した技術の習得を図る。	(株)ワールドストアパートナーズ

(別途、以下の資料を提出)

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則第33条に基づき、学校法人守末学園は、学園に勤務する専任教職員(必要を認める場合兼任教職員を含む)に対して、資質(知識・技能・識見等)の向上を図り、以て学生の学力・技術力向上と良識の涵養に資することを目的として、加盟する団体等が開催する研修会に適宜派遣する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Love of the hand	連携企業等:	Royal college of art
期間:	令和5年11月29日(金)	対象:	教員・職員
内容	教職員としてのインプットとアウトプットについて		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第40回 宮城県高等学校・専修学校各種学校協議会	連携企業等:	(一社)宮城県専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年10月4日(水)	対象:	教員・職員
内容	専修学校と高等学校進路担当教員の分野相互理解		

研修名:	令和5年度 中堅教職員研修	連携企業等:	(一社)宮城県専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年12月6日(水)	対象:	教員
内容	職場における周囲との関係づくり～ストレスマネジメントとコーチング～		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	令和5年度 技能検定合格者に対するフォローアップ講習会	連携企業等:	(一社)日本洋装協会 宮城県支部
期間:	令和6年1月21日(日)	対象:	教員
内容	毛芯を用いたジャケットの衿・袖づくり、見返しの展開		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	-	連携企業等:	-
期間:	-	対象:	-
内容	-		

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

職業実践専門課程の指定を受けることを通して、より良い学校運営を実施することを目指し学校評価に取り組む。学校自己評価を基に、学校関係者評価を学校関係者評価委員会に諮り、意見等を徴集し、教育の質の向上にこの評価の結果を反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動・学修成果
(4)学修成果	(3)教育活動・学修成果
(5)学生支援	(4)学生支援
(6)教育環境	(5)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(6)学生の受入れ募集
(8)財務	(7)法令等の遵守・財務
(9)法令等の遵守	(7)法令等の遵守・財務
(10)社会貢献・地域貢献	(8)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【意見】退学者の低減を図るために、基礎から教えることも大切だが、まずは作品を完成させるなど、達成感を味わう内容にしてみたらどうか。

【対応】次年度の1年生のカリキュラムを検討したいと思います。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年12月1日現在

名前	所属	任期	種別
馬淵 佑子	馬淵株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
小野 義紀	オズファインクロス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.miyagibunka.ac.jp/info.html>

公表時期: 令和5年5月1日

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料

* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿った形で、本校の教育活動においての情報を提供する。

- ・理事会・評議委員会資料
- ・職員会議資料・その他校長が必要と認める資料

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、目的・学校概要
(2) 各学科等の教育	授業計画・学科紹介
(3) 教職員	学校概要(教職員に関する調)・授業計画
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した実習演習・実務経験のある教員等による授業科目一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	事業報告
(6) 学生の生活支援	学生支援制度
(7) 学生納付金・修学支援	学費諸経費・学生支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	・自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.miyagibunka.ac.jp/info.html>

公表時期: 令和5年5月1日

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)

(別紙様式1-2)

授業科目等の概要

(専門課程 ファッションビジネス科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			被服構成理論Ⅰ-B	衣服の造形における知識の理解	1年	120	4	△		○	○		○		
2	○			被服構成理論Ⅱ-B	衣服の造形における知識の理解	2年	30	1	△		○	○		○		
3	○			被服構成基礎Ⅰ-B	服飾造形技術の習得	1年	60	2			○	○		○		
4	○			被服徳世基礎Ⅱ-B	服飾造形技術の習得	2年	150	5			○	○		○		
5	○			被服構成応用Ⅰ	レザー(革)・特殊素材の扱い	2年	90	3			○	○		○		
6	○			創作作品Ⅰ-B	デザイン～縫製まで自身で制作	1年	30	1			○	○		○		
7	○			創作作品Ⅱ	デザイン～縫製まで自身で制作	2年	120	4			○	○		○		
8	○			カジュアルウェアB	スカート・パンツ等の制作	1年	300	10			○	○		○		
9	○			立体裁断Ⅰ-B	パタンナーが使用する技術である立体裁断の技術を習得	1年	30	1			○	○		○		
10	○			修了作品	1年次に学んだ技術を駆使し、ワンピースを制作	1年	60	2			○	○		○		
11	○			卒業作品Ⅰ-B	テーマに沿った服の制作・ポートフォリオの作成～プレゼンテーション	2年	232	6			○	○		○		
12	○			スタイル画Ⅰ	人体プロポーションの正確な理解・デッサン	1年	75	5			○	○			○	

(専門課程 ファッションビジネス科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			スタイル画Ⅱ	人体プロポーションの正確な理解・デッサン	2年	75	5			○	○			○	
14	○			色彩学Ⅰ	配色技法・色彩	1年	18	1	○		△	○			○	
15	○			色彩学Ⅱ	配色技法・色彩	2年	18	1	○		△	○			○	
16	○			アパレル繊維論Ⅰ	素材の種類と分類	1年	33	2	○			○			○	
17	○			アパレル繊維論Ⅱ	素材の種類と分類	2年	48	3	○			○			○	
18	○			西洋史Ⅰ	西洋服装史	1年	16	1	○			○			○	
19	○			西洋史Ⅱ	西洋服装史	2年	16	1	○			○			○	
20	○			ファッション概論	ファッションに関する全体像の理解	1年	15	1	○			○			○	
21	○			ファッションビジネス論Ⅰ	マーケティング・トレンド	1年	50	2	○			○			○	
22	○			ファッションビジネス論Ⅱ	マーケティング・トレンド	2年	15	1	○			○			○	
23	○			コーディネートⅠ	スタイリング	1年	33	2	△		○	○			○	
24	○			コーディネートⅡ	スタイリング	2年	15	1	△		○	○			○	
25	○			ヘアメイクⅠ	ヘアアレンジ・メイクアップ	1年	24	1			○	○			○	

(専門課程 ファッションビジネス科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
26	○			ヘアメイクⅡ	ヘアアレンジ・メイクアップ	2年	20	1			○	○			○	
27	○			マーチャンダイジング論Ⅰ	企業と連携しての実習	1年	48	2			○	○	○		○	○
28	○			マーチャンダイジング論Ⅱ	企業と連携しての実習	2年	56	3			○	○	○		○	○
29	○			パーソナルカラーⅠ	パーソナルカラー・色の違い	1年	18	1	△		○	○			○	
30	○			ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ	ヴィジュアルプレゼンテーション	2年	30	2	△		○	○			○	
31	○			パソコンⅠ	パソコンの技術・操作習得	1年	30	1			○	○			○	
32	○			パソコンⅡ	パソコンの技術・操作習得	2年	15	1			○	○			○	
33	○			前期選択授業 ※一つを選択	レザー	1年	30	1			○	○			○	
					PM対策						○	○			○	
					手芸						○	○			○	
					手編み						○	○			○	
					写真						○	○	○		○	
				レザー						○	○			○		

(専門課程 ファッションビジネス科)																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
34		○		前期選択授業 Ⅱ※一つを 選択	PM対策	2 年	30	1			○	○		○		
					手芸						○	○			○	
					手編み						○	○			○	
					写真						○	○	○		○	
35		○		後期選択授業 Ⅰ※一つを 選択	レザー	1 年	30	1			○	○		○		
					PM対策						○	○			○	
					手芸						○	○			○	
					手編み						○	○			○	
				写真					○	○	○		○			
36		○		後期選択授業 Ⅱ※一つを 選択	レザー	2 年	30	1			○	○		○		
					PM対策						○	○			○	
					手芸						○	○			○	
					手編み						○	○			○	

(専門課程 ファッションビジネス科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
					写真						○	○	○		○	
37	○			一般教養Ⅰ	マナー・就職	1年	15	1	○	△		○			○	
38	○			一般教養Ⅱ	マナー・就職	2年	15	1	○	△		○			○	
39	○			イベント企画Ⅰ	ファッションショー・郊外研修	1年	15	1			○	○	○	○		
40	○			イベント企画Ⅱ	ファッションショー・郊外研修	2年	45	2			○	○	○	○		
合計						40 科目		2100 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：履修すべき教科の評点が60点以上（単位取得）であること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：全て必修、ただし前期・後期選択授業のみ科目概要の一つを選択		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。